

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		通所支援事業所 sumire				公表日	令和7年 2月 4日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用者の活動が重ならないようにシナリオが組まれている。定員10名に対し、少人数設定になるようにクラス分けしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準人数を超えて配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	構造化された環境で分かりやすい空間にしてある。活動エリアが区切られており、個別のスケジュールを使ってわかりやすいように配慮されている。	玄関の段差は滑り止めシートで視覚的に強化してある。年齢の低い利用者には必ずスタッフが付き添い配慮する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清潔を保てるよう毎日心がけている。活動内容に合わせてスペースを確保している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		スケジュールは個別に組んである。必要に応じて落ち着きたい場所も確保できる環境になっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		主にスタッフ会議時に提議し全員で確認し取り組んでいる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		スタッフ会議で保護者評価表を確認し、業務改善内容を話し合っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の支援後のミーティングで、意見交換をし、翌日からの業務改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	第三者委員を選任しており、随時連携をとっている。	サービスに対する評価を実施する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職責や経験に応じて研修を計画的に受講する。事業所内で定期的に児童の特性や関わり方についての研修を実施している。		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		日々の支援の状態に合わせた支援プログラムが作成され、ホームページに公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		保護者のニーズと事業所で実施するアセスメント、こども園のニーズと年齢段階を考慮して作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者が立案した計画書を基にスタッフ間で話し合い作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援後のミーティングで出た意見を支援計画に反映させており、支援計画に基づいての日々の支援プログラムを作成している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		個別支援において円城寺式アセスメントを行い、随時インフォーマルなアセスメントを繰り返し実施している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		項目ごとに内容を整理しわかりやすく具体的に設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		日々の利用者の状態から次の支援の方向性を全員で意見を出し合っている。		

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	集団支援での活動内容において創作や運動、外出スケジュール等を活用し工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	一日のスケジュールにおいて支援計画に沿った個別活動と小集団活動を組み合わせて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	支援後のミーティングにおいて、翌日の支援についても全員で確認をしている。突発的なことや変更は当日朝に確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	支援終了後のミーティングで情報の共有がよくなされている。利用者の行動や状態について個別に振り返り、全員で注意点など共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	ミーティング時にその日の児童の行動や発言、注意点等を記録し後から確認できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	支援計画の項目をモニタリングし全て達成した時点で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	職責やこどもの特性状況をよく理解したものが参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	定期的に保育所等へ訪問を行い、こどもの状況について情報交換を行い連携している。事業所の見学に保育所や他の事業所間の訪問もある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	併行利用の機関とは支援内容等の情報共有をし、相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	移行に向けては特性や構造化支援シート等を活用して丁寧に引き継いでいく。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	児童発達支援センターから案内された研修会等には積極的に参加し、連携に繋げている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	土曜セッションの活動内容の中に地域の他の子どもと一緒にいるものを定期的に組み入れている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	連絡帳や送迎時にその日の様子を保護者と伝え合っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	専門職による保護者へのアドバイスや特性を交えた情報提供をし、個別に保護者参観を行っている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	契約時に丁寧に説明している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	保護者のニーズを文書で確認し、その内容を支援計画へ反映させている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		モニタリングミーティングを実施し項目ごとに説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		定期的なミーティングで相談に応じている。家庭でできる支援として事業所で達成したシステムを活用したものを案内し取り組めるように準備して手渡している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		保護者会の開催を計画する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		その日のうちにスタッフ全員で情報共有を図り対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNSを活用してその日の活動内容や様子が写真や文章で分かるようにしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		十分留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		情報伝達は個別に実施して確認をとっている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	事業所の行事がまだ実施されていない。	地域の行事に参加する方向で計画する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを策定し、定期的に訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		計画を策定し、万一の場合にこどもが慌てず非難ができるように訓練している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		研修に参加し情報を共有している。支援時に連絡帳と共に薬や体調の状態を確認できる資料を提出してもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	現在アレルギーの子どもなし。	利用開始時に確認する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理に常に留意し、定期的に訓練を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		家族に連絡帳や個人ラインで連絡を取っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ミーティング時にヒヤリハットと対策を全員で話し合い共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		スタッフ会で定期的に研修している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		保護者に説明し、必要に応じて了解を得るようにする。		